

# ハーモニー

## 見事6位入賞

前回の学校だよりで紹介しました11月8日(金)にあった県駅伝大会の報告です。会場となった天草のコースは玉名荒尾大会よりもアップダウンが激しくカーブも多いコースでしたが、記録は42分32秒で玉名荒尾の大会記録よりも早くなっています。

また玉名荒尾大会で11秒の差をつけられた1位のチームとは5秒差まで縮めました。そして、27チーム中6位入賞を果たすことができました。当日は荒尾から応援を届けてくれた生徒や先生方、地域の皆様に感謝しています。ありがとうございました。



## 授業研究会を行いました

生徒も勉強していますが、先生方も生徒の学力が伸びる授業を目指して、研鑽しています。

11月12日(火)には授業改善アドバイザーに来ていただき、2時間目と3時間目の授業を見ていただきました。また、11月18日(月)には県立教育センターの指導主事に来ていただき、1年5組の社会の研究授業を見ていただきました。荒尾三中では「三中授業スタイル」を行うことで学力の充実を図っていますが、これは荒尾市が推進している「荒尾ベーシック」を三中の生徒に合わせたスタイルにしたものです。特に荒尾市の共通実践事項として今年度進めているのが4つあります。

- ①授業に学習リーダーがいる
- ②学習グッズを使っている
- ③めあてと同時にまとめの書き出しがある
- ④キーワードを使っている

です。以前は1時間ずっと自分の席に座ったままで、先生の話の聞く授業スタイルが主流でしたが、今は自分から進んで課題を解決するために“動き”ながら答えを見つけています。「個別最適」「協働的」がキーワードとして使われ、主体的に学ぶ生徒を育てています。



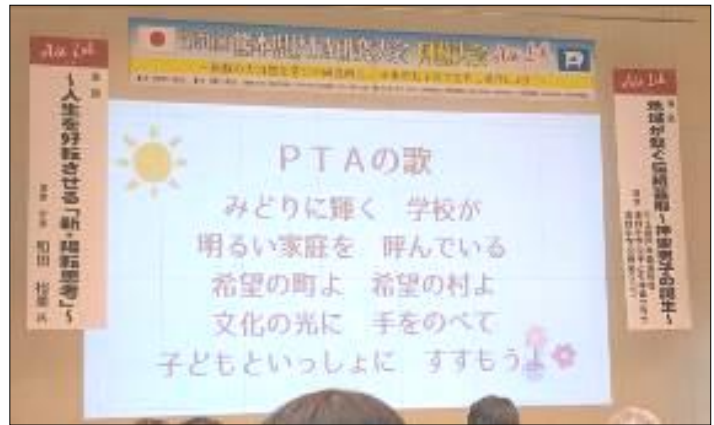
## 教育長を囲む会

11月16日(土)授業参観はありがとうございました。保護者の皆様の参観のおかげで、子どもたちの中に緊張感と元気が生まれます。今回は授業参観後に1年生はレクレーション、3年生は進路に向けての話、そして2年生は教育長に自分たちの考えや意見を話す会をPTAで企画されました。教育長にも丁寧に答えていただきました。



## くまもとけん けんきゅうたいかい 熊本県PTA研究大会

11月9日(土)に阿蘇地域を会場として開催されました。最初から3つの分科会に分かれており第1分科会が西原村総合体育館第2分科会が阿蘇中学校体育館第3分科会が高森中学校体育館でありました。



それぞれ、2つずつの内容がありました。

第1分科会が①記念講演「現在に生きる北里柴三郎の教え」

②テーマ(家庭教育)「繋げたい!“子どもたちのために”」

第2分科会が①テーマ(地域連携)「地域が繋ぐ伝統芸能～神楽男子の誕生～」

②テーマ(家庭支援)「～人生を好転させる『新・陽転思考』～」

第3分科会が①テーマ(教育支援)「コアミックスが目指すエンタメ業界と連携したまちづくり」

②テーマ(ICT教育)「将来の子どもたちに誇れる高森町へ！」

でした。私は荒尾第三中学校PTA会長と一緒に第2分科会に参加しました。①では神楽の一部が実際に披露されました。小学生から高校生も多く演者として出ていました。地域のつながりの強さと地域で子どもと育てている素晴らしさを感じました。②は作家で実業家である和田裕美さんの話でしたが、『陽転思考』を実践して幸せになりたいと思いました。以下、記憶に残った言葉です。

- ・陽転思考すると幸せになる。
- ・思考は性格(明るいからできる、暗いからできない)ではない。癖である。
- ・良い癖をつける。

例) ・こんにちは → こんにちは+笑顔キープ

- ・話を聞くととき、この話を誰に話そうか考えながら聞く(記憶に残る)。
- ・心と体はリンクしている。元気がない時は、逆に元気なフリをする。
- ・最悪な事があった時に、“腐っていく”人と“返り咲く”人がいる。返り咲く人は陽転思考。陽転思考を唱えていたのが松下幸之助さん。
- ・脳の思考癖を変える！  
例えば給食の時、苦手なものが目に入る人と、好きなものが目に入る人では・
- ・インターネットの検索では検索ワードに似たことがどんどん集まると同様に脳内でも同じことが起こる。「自分はバカ」と思うと、本当は「バカ」じゃなくても「バカ」になっていく。「自分はデキる」と思うと、「デキる」ようになっていく。
- ・嫌いなものは続かない。好きなものだけが続く。好きを増やすのが陽転思考。

熊本県の多くのPTAが子どもの健全育成に向けて研修されている姿に感動した1日でした。また、「PTAの歌」があるのも新しい発見でした。